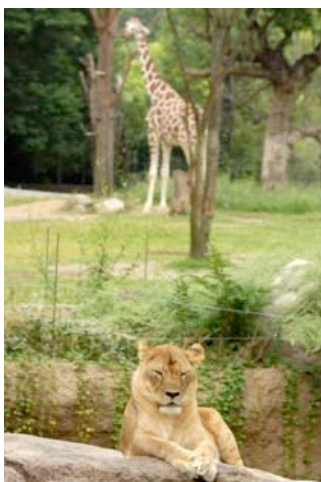


### 3) 熱帯動物ゾーン ～多様な環境・多様な生き物～

#### 生き物のつながりを伝えます

熱帯では多種多様な生物が、網の目のようにつながりながら住み分けるといふ、寒帯とはまた違った暮らしがあります。キリンやシマウマなどの草食獣と、それらを餌とするライオンなどの肉食動物を同じエリアで展示することで、生き物のつながりを伝えていきます。



生き物のつながりを伝える展示



シマウマとキリンの共生展示

#### 施設維持の面からできるだけ施設をコンパクトにまとめます

ダイナミックな展示や、冬期に暖をとりながら動物を観察できる施設という重要性に配慮するとともに、維持管理の面から、できるだけ施設をコンパクトにまとめていきます。

#### 展示動物

チンパンジー、オランウータン、シロテテナガザル、ヒョウ、ライオン、キリン、ダチョウ、シマウマ、ヤマアラシ等

#### 主要な施設

類人猿舎、草食動物と猛獣広場等

#### 4) ふれあいゾーン ～いのちにふれる～

##### 小動物や家畜など身近な触れ合いができる場所とします

動物を実際にさわることによって温かみを感じ、相手を思いやる心をはぐくむことができるよう、現在のこどもどうぶつえんを充実させながら、幼児でも安心して利用できる安全性と衛生面に配慮した整備を行ないます。子どもの目線に合わせた施設作りとともに、子どもたちを見守る保護者への配慮も必要です。

さわれなくても間近に動物を見ることで新しい発見や動物への関心を持てるような、あるいは動物を題材にした絵本や遊びをとおして多面的な動物への関心をはぐくめるような、こどもの特性に合わせた工夫をしていきます。



ヤギとのふれあい



広々としたふれあい広場

##### 小動物や家畜の本来の動きや姿を伝えます

小動物や家畜などと身近な触れ合いをするだけでなく、それらの動物を広い場所に放牧することで、動物本来の動きや姿を伝えていきます。



ヤギの放牧



野生化したウサギ

##### **展示動物**

ウサギ、ヤギ、ポニー、アルパカ等

##### **主要な施設**

触れ合い動物舎、図書館等

## 5) 遊園地ゾーン

開園以来、園内ののりもの広場は、釧根地方唯一の総合的遊園地として親しまれてきました。道内の遊園地やテーマパークの増加、交通手段の高速化、レジャーの多様化、さらには少子化の進行もあって、近年の遊具利用者数は大きく減少しました。

そのような状況の中、今後も引き続き地域における身近な娯楽施設としての役割を担っていくとともに、電動遊具の集約化、コンパクト化、幼児・児童が利用しやすい中・小型遊具への更新を図ります。また、園内に分散する形で、自然環境や動物に関係した体験学習型遊具施設を充実させるなど、動物園ならではの「楽しみ」を増幅させていきます。

## 6.2. 施設整備方針

基本方針2：豊かな自然環境／ランドスケープを生かした施設整備を行います

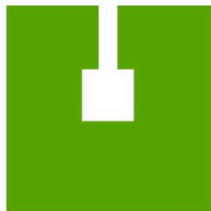
基本方針4：だれもがゆったりと楽しめる施設整備を進め、

開かれた利用を促進していきます

基本方針5：自然と遊び、動物と遊ぶ施設整備、ソフト事業を行っていきます

### 1) 展示施設

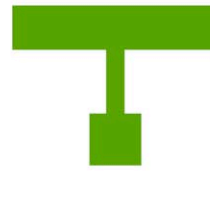
#### 4つの基本的な展示形状



動物のエリアに人が入り込む



動物のエリアを人が通り抜ける



動物が人の方へ飛び出す



動物に囲まれる

豊かな自然環境／ランドスケープを生かし動物の生息する自然環境に人が入り込んだり、通り抜ける事で、動物を見るのではなく、体感する展示方法を行います。また、動物が人の方へ飛び出してくる事で、身近に動物を感じられるとともに、驚きや発見を生み出します。それと共に広がりの中にある動物に囲まれる中ゆったりと動物を感じる展示方法を行います。

#### 高低差のある地形を生かした展示

河岸段丘の高低差のある地形を生かし、上から眺めたり、下から見上げたりなど高さの違うところから楽しむ事ができる展示方法を行います。

#### 環境エンリッチメントの実施

大きな施設改修を行うまでの期間や大規模な改修を行わない施設において、動物福祉の視点に立ち飼育動物の幸福な暮らしを実現するため、小規模ながらも様々な施設の改善や餌やり方法の改善などできることから取り組みを行っていきます。

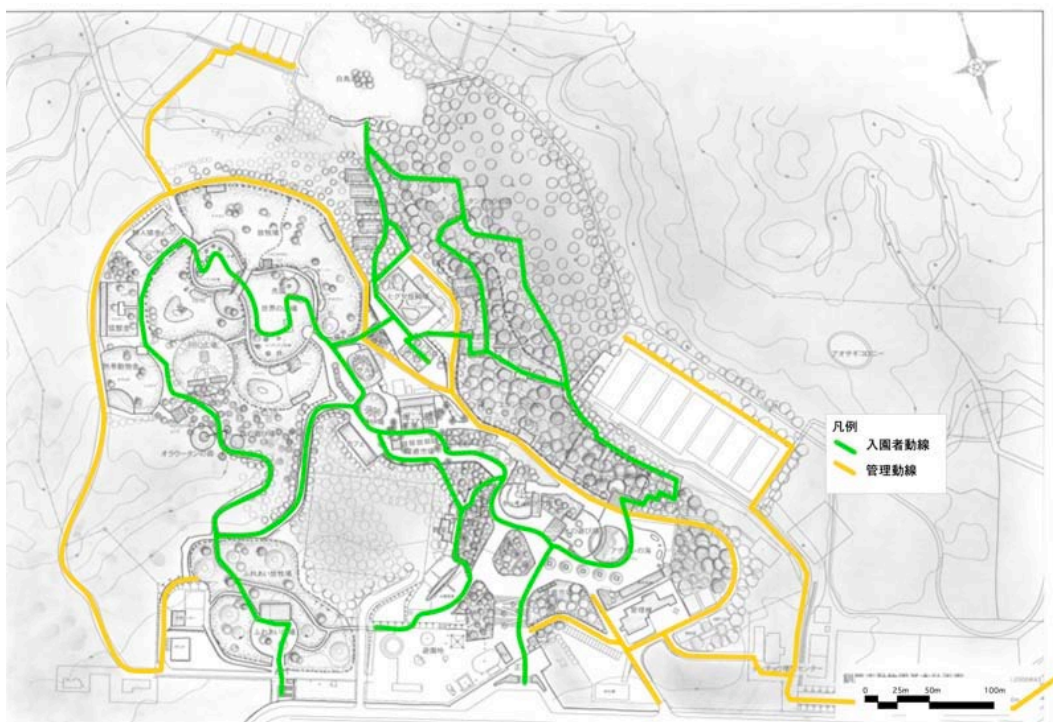
## 2) 動線／園路

### ユニバーサルデザインに配慮していきます

車いすやベビーカーを含め、安全・安心、快適に利用できるように、極力園路を舗装、段差、勾配に配慮し、ユニバーサル対応していきます。だれもが、自分の行きたいところに自由にいけるように、サインと連動した舗装面上のサイン表示等にも取り組んでいきます。

### 来園者動線と管理動線の交錯を極力改善していきます

来園者動線と管理動線の交錯がないよう動線計画を見直します。交錯が改善できない部分では、ゲートの設置や明確に来園者が優先であるとわかる舗装にする等、施設的な改善を行います。



動線計画平面図

### 3) 休憩・サービス施設／遊戯施設

#### 休憩施設

園内での快適な利用ができるよう、各所にベンチ等の休憩施設を設けるとともに、冬期に備え現在の屋内休憩施設を充実させていきます。また、現在のレストハウスを学校などの団体利用ができ、周りの自然環境を満喫できる教室へと改修することを検討していきます。

休憩施設の設置場所に関しては、ゆっくりと休憩しながら動物を観察できる事に配慮した構造と位置としていきます。

#### サービス施設

カフェなどの飲食施設の充実した整備を検討していきます。また、一カ所集中だけでなく、分散し無人形式でも飲食がとれる施設整備も併せて行っていきます。

売店での物販についても、その内容を見直し、より環境教育につながるような物販や地元の事がわかる物販内容への変更を検討していきます。

#### 遊戯施設

遊園地ゾーンだけでなく、園内の随所に幼児・児童でも簡単に遊べる環境体験型遊具を整備していきます。湿地環境の中で遊ぶ「湿地の遊び場」、サルなど動物と共に遊ぶ遊び場などの整備を進めていきます。



豊かな環境での遊び場



湿地の遊び場

## 4) 作業場環境

動物展示施設の整備や改修とともに、バックヤードなどの作業場環境を改善していきます。

## 5) サイン

### 園内移動の快適性の向上

わかりやすい動線と共に園内を迷う事なく、自由に移動できる事をサポートする案内板や誘導サインを充実させていきます。

### 魅力的な園内情報提供の充実

プログラム情報や動物の旬な情報を充実させていきます。また、これまでの手作りの動物解説をより充実させていき、温かみのある情報伝達を行っていきます。

行動を起こす事で伝える、ハンズオン型のサインや舗装面など思わぬところから出くわすサインを充実させていく事で、来園者の驚きや発見を促していきます。



動物解説の舗装面



ハンズオン型サイン

## 7. 活性化に向けたソフト事業と経営戦略

### 7.1. 活性化に向けたソフト事業

基本方針4：だれもがゆったりと楽しめる施設整備を進め、  
開かれた利用を促進していきます

基本方針5：自然と遊び、動物と遊ぶ施設整備、ソフト事業を行っていきます

基本方針6：展示を支える、環境教育を中心とするソフトの充実をはかります

基本方針7：市民と共に動物園をつくり育てていきます

#### 1) 魅力ある情報伝達

##### 環境教育プログラムの充実

これまでのガイドプログラムをより充実させるとともに、特に環境教育プログラムを充実させていきます。これは、市民にとっては環境教育につながり、外部の人にはエコツーリズムにもつながっていきます。

幅広い人へ伝え、より深い興味へつなげるため、「セルフガイドプログラム」「ガイドプログラム」「体験プログラム」「講座プログラム」など多様なプログラムを用意し、来園者を動物や自然環境への「興味」から「関心」そして「環境行動」へとつなげていきます。

これらのプログラム実施の蓄積のもと教育機関と連携し独自の環境教育教材の開発も検討していきます。



環境教育プログラム



ガイドプログラム



### **野生動物保護活動の周知**

釧路市動物園では、タンチョウを中心とする野生動物の保護活動、野生復帰へ取り組んできています。しかし、これは一般的にあまり知られていない状態にあります。これからは、動物園内の動物を見せ、命の最前線にいる活動をしっかりと伝えていきます。



野生のタンチョウの保護活動



野生復帰を目指す動物

### **利用備品の貸出し**

豊かな自然環境の広い園内を満喫できるよう、バードコール、双眼鏡など、自然観察備品やレジャーシート、ハンモックなどレクリエーション備品の貸し出しの実施を検討し、動物園内の利用啓発を行っていきます。



森の中でのバードコールの利用



森の中でのハンモック

## 2) 徹底した動物園利用の開放と利用周知

### イベント等の活動利用の積極的誘致

釧路市動物園自体の利用促進、情報発信、集客のため、誰もが動物園をプログラムやイベント等で利用できるよう、利用を開放し、様々な利用／活動が動物園内で展開されていく事を促進していきます。様々な活動やイベントを開催、活用したいと思っている市民や団体は実は多いと考えられます。この利用開放によって、利用の可能性を広げ、新たな動物園利用の可能性をみていきます。



積極的なイベント誘致



様々な活動を展開

## 3) みんなの動物園として取り組んでいく

### 市民とともにある動物園の取り組み

市民と共に下記の取り組みを行っていきます。

#### 「ガイドボランティアの育成」

ガイドボランティアの育成プログラムを実施し、園内ガイドを充実したものとしていきます。

#### 「アニマルファミリー制度の導入」

アニマルファミリー制度を導入し、動物への愛着を育み、市民協力を促していきます。

※アニマルファミリー制度とは、動物への愛着や理解を深めてもらうために支援を募る制度のことです。

### **「整備自体への参加」**

植樹活動、舗装整備、園内サイン作成など市民参加型プログラムの実施を通して動物園整備に参加できる機会を創出していきます。東京都の都市公園事業で行われている「思い出ベンチ」、岩見沢駅舎における「レンガへの名前の刻印」など寄付型の整備プログラムの検討も併せて検討していきます。



市民参加による舗装整備



岩見沢駅舎のレンガの寄付

### **周辺施設とともにある動物園の取り組み**

園内をホーストレッキングの一部として利用するなど、周辺レクリエーション施設との連携を強化し、お互いにとってメリットとなるような取り組みを実施していきます。

### **地域とともにある動物園の取り組み**

釧路の大きな特徴である、農業、漁業関係者／団体と連携した取り組みを検討していきます。また、教育機関と連携し、調査研究の場として提供するだけでなく、学習団体利用の場としての利用を促進していきます

近年の企業 CSR の動向を見ると、動物園と企業の連携はお互いにメリットのある可能性を秘めており、積極的に企業連携に力を入れて取り組んでいきます。

## 7.2. 活性化に向けた経営戦略

**基本方針7：市民と共に動物園をつくり育てていきます**

**基本方針8：健全な動物園運営を進めます**

**基本方針9：動物園の魅力を広く発信し続けていきます**

### 1) 健全な動物園運営

動物園予算は「動物園事業特別会計」として独立しています。平成20年度の総事業費3億3,000万円のうち、収入は入園料3,000万円と遊具使用料2,400万円であり、残りは一般会計からの繰り入れです。支出は人件費1億4,000万円、委託費8,600万円、飼料費3,000万円、光熱費2,000万円、工事費等2,500万円、公債費1,600万円、その他1,300万円となっています。

健全な動物園運営に向けて、支出減、収入増を目指します。

### 2) 釧路市動物園整備基金の充実と活用

釧路市動物園の価値、魅力、取り組みの周知の徹底のもと、平成21年に設置された「釧路市動物園整備基金」を充実したものとし、基本計画に基づいた施設整備や動物購入に当て活用していきます。

### **3) 新たな来園者の獲得**

社団法人日本動物園水族館協会では所在地の都市人口数を入園者数の目安としています。そこで当面 10 年で釧路市の想定人口である 16 万人の入園者を目標にしながら、最終的には基本計画に沿った改革の推進により、新たな来園者の増加を加味し 20 年後に 18 万人の達成を目指したいと考えます。

従って、リピーターの充実を図るとともに、新たな来園者の獲得を目指します。広く動物園の魅力を伝えていくとともに、ターゲットを明確にし、それに応じた対策を図っていきます。

#### **様々なイベントの促進**

イベント活動の実施は、これまで来園しなかった人に来園機会をもうける事につながるため、積極的に市民協力のもと様々なイベントの実施を促進していきます。

#### **観光客の誘致**

釧路市動物園は立地、自然環境、展示動物内容ともに観光資源として活用できる可能性を秘めています。このため、旅行者をターゲットとした広告・宣伝活動を強化していきます。

#### **修学旅行の誘致**

現在、増えつつある釧路市動物園への修学旅行を積極的に誘致し拡大していく事で、来園者数の増加を目指していきます。これは、単なる来園者増につながるだけでなく、教育面での取り組みの充実にもつながります。

## 8. ブランディング戦略

---

基本方針7：市民と共に動物園をつくり育てていきます

基本方針8：健全な動物園運営を進めます

基本方針9：動物園の魅力を広く発信し続けていきます

### 8.1. 名称変更とキャッチコピーの検討



みんな幸せ、動物園。

検討案

これまでの検討の中にあつた、釧路市動物園の価値をしっかりとわかりやすく伝えていく、動物園自体の名称やロゴ、キャッチコピーについて検討を行っていきます。

※ここで提案している「釧路自然動物園」は、豊かな自然環境の中にある動物園である事を一番わかりやすく伝える名称になっています。ロゴ自体は、「いのち」を伝えるハートが折り重なり、幸運の4つ葉のクローバーになっています。また、広がりのある豊かな環境の中、生き生きと過ごす動物達、それらを見ながら来園者も幸せになることから、キャッチコピーを「みんな幸せ、動物園。」としています。

## 8.2. 情報発信戦略

釧路市動物園が持つ価値／魅力を、来た人がまた来たいと思える情報発信方法、これまで来ていなかった人に新たに来たいと思える情報発信方法を大きく市民への周知と観光客への周知へと分けて検討していきます。

### 1) 徹底した市民へ周知

常に旬な情報をタイムリーに届ける事が重要になってきます。従って、以下の情報発信の方法を検討していきます

- わかりやすい魅力的なホームページ
- スーパーなど日常、釧路市民が生活の中で利用する施設における掲示
- 口コミにつながる、魅力的なパンフレットの作成

### 2) 観光客への周知

立地条件としては、観光地となる可能性を秘めているが、そうっていない現状を考えると、観光客へ基本的な情報が周知されていない事が考えられます。従って、以下の情報発信の方法を検討していきます。

- 宿泊施設、飲食施設、旅行代理店、空港等における情報発信の充実
- 積極的なマスコミの活用
- 釧路市動物園までのわかりやすい誘導
- 多言語に対応する案内の充実

### 8.3. 北海道動物園構想（案）

北海道には全国的に有名な旭山動物園をはじめとする動物園があるだけでなく、北海道ならではの豊かな自然環境を代表する国立公園／国定公園の大自然があります。それぞれの動物園と国立公園／国定公園の大自然が連携する事で、北海道の動物の魅力を増強して伝えることにつながります。それとともに、それぞれの立地と特徴を生かしながら連携する事で、北海道全体の動物園の質の向上にもつながり、相互利益のある取り組みとなります。

こういった連携の取り組みをはかる「北海道動物園構想（案）」の検討を行っていきます。



北海道動物園構想（案）



## 9. 事業計画

本基本計画は、おおむね20年間の施設整備計画、その間の取り組みを示す長期計画となっています。従って、今後概ね20年の諸情勢変化を見ながら、実施した整備の評価のフィードバックなど必要に応じてある程度柔軟に対応していきます。

釧路市動物園の持つ価値を魅力的に効率的に伝える事ができる整備順序を考慮し、「北海道ゾーン」を第一の整備対象としていきます。

ゾーン名	基本構想(20年)		整備方針
	基本計画(前期)	基本計画(後期)	
北海道ゾーン			当園の特徴的なゾーンであることから、他に優先して整備する
寒帯動物ゾーン			当面は部分的な改修で見せ方の工夫を行ないながら、移転改築が必要な整備は後期の段階で行なう
熱帯動物ゾーン			寒帯動物ゾーンの再整備にあわせながら移転改築になるため後半での整備となる
ふれあいゾーン			西門エリアの遊戯施設の撤去にあわせ空きスペースが出来次第、ふれあい動物広場等より充実したふれあいゾーン施設整備を行う
遊園地ゾーン			西門エリアの遊戯施設は、老朽化のため逐一撤去する。必要最低限の電動遊具のみ正門エリアに新規設置する
動物園付属施設 (タンチョウ関連施設)			阿寒国際ツルセンター、丹頂鶴自然公園、タンチョウ保護増殖センター3施設の機能分担による整備を行う

事業計画スケジュール

## 10. 動物園付属施設（タンチョウ関連施設）の整備計画

### 10.1. タンチョウ関連施設における基本計画の進め方

平成 17 年、釧路市、阿寒町、および音別町が合併し、新たな釧路市となりました。このため、釧路市は釧路市動物園の所管施設として、釧路市丹頂鶴自然公園（昭和 33 年開園）、タンチョウ保護増殖センター（昭和 56 年開設）、阿寒国際ツルセンター（平成 8 年開設）の三つのツル関連施設を抱えることになりました。これらの施設は設立当時のタンチョウが抱えている問題を解決することを目的に設立され、それぞれ特徴のある活動が展開されていますが、類似する事業もあります。

そこで、釧路市動物園は類似機能も有する 3 施設の合理的かつ効果的運用を進めるため、現在のタンチョウが置かれている現状を踏まえて、ツル関連施設についても基本計画を定めることにしました。

そのために、まず釧路市のタンチョウに対する取り組みについてのビジョンを、動物園として整理し、全体的な方向性を定めることにしました。

続いて、ツル施設の現状を解析した後、3 施設の機能（基本方針）を明確にし、それらの結果に基づいて、丹頂鶴自然公園と阿寒国際ツルセンターの施設整備計画の方針を策定することにしました。



タンチョウ保護増殖センター



釧路市丹頂鶴自然公園



阿寒国際ツルセンター

## 10.2. 釧路市におけるタンチョウに対する取り組み（ビジョン）

タンチョウといえば釧路を連想するほど、国内外の人々による釧路地方とタンチョウとのイメージの結びつきは強く、タンチョウの存在そのものが観光を通じて釧路地方に高い経済効果をもたらしています。しかしながら、釧路市民の多くはタンチョウについてあまり関心を持っておらず、また自分たちの先人たちが行ってきたタンチョウ保護活動とその経過やタンチョウの現状について、学校教育を通じてさえ詳しくは知らされていません。

自然環境の保全や野生動物の保護の第一歩は、行政、農家、市民らがコミュニケーションを通じて正確な情報を共有することです。したがって、釧路市には、飼育管理や野生集団の危機管理に関わる調査、あるいは給餌や監視活動などの実践活動のほか、市民や観光者に向けたコミュニケーションや情報発信、あるいは環境教育を通じた普及啓発を充実していくことが、今後一層求められています。また、この普及啓発事業により、市民の郷土に対する誇りが培われ、来訪者に対する釧路市の魅力が一層強く伝わっていくでしょう。

## 10.3. ツル施設の全体的方向性

釧路市には単一希少種では世界に類を見ないほどの情報がタンチョウ関連施設に集積されています。他方、飼育しているタンチョウや野生のタンチョウにおいて今何が起きているのか、といった情報がリアルタイムで市民に広く伝えられていません。

したがって、ツル関連施設には従来の 1) 調査研究施設としての機能の継承の他に、2) 情報の収集・集積・発信基地、および 3) 教育施設としての機能が求められます。

## 10.4. タンチョウ関連施設の現況解析

### 1) 施設

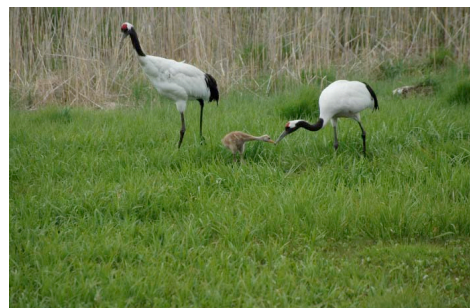
タンチョウ保護増殖センターは釧路市動物園に隣接する施設で、25.8ha の面積を有していますが、その大部分は公開されていません。ここでは、傷病で保護される個体や死体について動物病院を併用しながら治療とリハビリ、解剖を行い、また死体標本の保管を行っています。

釧路市丹頂鶴自然公園（9.8ha）はたんちょう釧路空港に隣接する施設で、タンチョウの保護増殖研究の場として位置づけられています。丹頂鶴自然公園は湿地環境に設置された施設であり、本来の生活空間に近い状態でタンチョウが飼育管理されています。また、管理棟には丹頂鶴自然公園の歴史などを紹介した展示室があります。

釧路市阿寒国際ツルセンター(7.2ha)はツル類の学習教育の場として位置づけられており、周辺には、「道の駅『阿寒丹頂の里』」、「あかんランド丹頂の里」、「北緯43度美術館」、農村公園といった施設が隣接しており、阿寒地区のレジャー・スポットになっています。ツルセンターにはツル類の飼育場のほか、博物展示室、ライブラリーコーナー、研究室等がある本館があります。また、人工給餌発祥の地として知られる阿寒給餌場に飛来する野生タンチョウを観察できる別館タンチョウ観察センター（昭和52年開館）やビオトープがあり、これまで研究教育施設として整備されてきました。



雛の検診



鶴公園での子育て風景



阿寒給餌場での給餌風景

## 2) 飼育展示施設等

タンチョウ保護増殖センターの飼育場には動物園来園者が観察できるように北海道ゾーンの園路に公開スペースが設けられています。ここは、開設以来改修されておらず、老朽化しています。また地下水の供給量が減少するなど、飼育環境の悪化も徐々に進行しています。

丹頂鶴自然公園は湿地環境に開設されているため、来園者は野生では観察することが難しいタンチョウの本来の暮らしぶりを間近に見ることができます。しかし、画一的な複数のケージが幅500mにわたって設置され、フェンス越しにタンチョウを観察する展示スタイルをとっており、自然豊かな施設環境特性を生かし切れていません。このため、来園者はタンチョウ、人、そして自然とを有機的に結び付けることができていません。また、昭和63年に改修されましたが、その後の湿地の乾燥化（森林化）、フェンスの凍上や老朽化が進んでいます。

阿寒国際ツルセンターでは、展示室展示物が老朽化し、かつ更新されておらず、また飼育展示数の少なさから、来館者に十分な満足度を与えることができていません。また、飼育施設でも設備の劣化が目立ち始めています。ここには、放棄農地が湿地環境（ビオトープ）へと造成されており、また冬季にねぐらとして利用する阿寒川も隣接しています。しかし、これらの環境が自然環境の学習の場として有効に活用されているとは言い難い状況です。



老化著しい増殖センターのケージ



鶴公園の園路



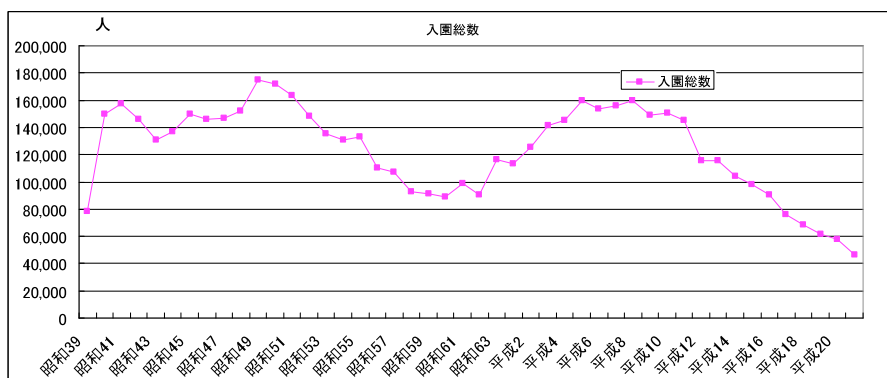
阿寒ツルセンターのビオトープ

## 1) 利用実態（丹頂鶴自然公園と阿寒国際ツルセンター）

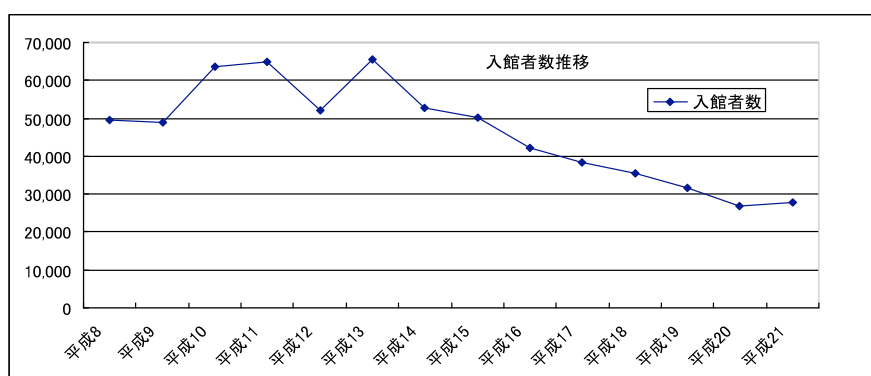
丹頂鶴自然公園の入園者は一般公開が始まった昭和 39 年以降、10 万人から 17 万人で推移していましたが、平成 12 年から減少が始まり、今も減少傾向の歯止めが利かず、平成 21 年度は 46,336 人まで減りました。

阿寒国際ツルセンターは平成 13 年度の 65,416 人のピーク後、減少が続き、特に冬季入館団体の減少著しい状況にあり、平成 21 年度の入館者は 27,811 人でした。

丹頂鶴自然公園も阿寒国際ツルセンターも、釧路市動物園の所管施設でありながら、教育施設としての利用に関するコンセプトが統一されておりません。



丹頂鶴自然公園の入園者数推移



阿寒国際ツルセンターの入館者数推移

## 2) 運営状況

丹頂鶴自然公園と阿寒国際ツルセンターは、共に動物園所管施設ですが、それぞれ別々に運営されています。動物園のツルに関する事業として統一して事業を展開するためには、システムの統一が必要です。

## 10.5. 各施設の機能（基本方針）

### 1) タンチョウ保護増殖センター（野生タンチョウ危機管理施設）

生息数の増加に伴って事故が増え、最近では毎年 30 羽ほどの傷病タンチョウや死体が収容されます。このような状況は今後も続くため、収容死体の解剖、死体標本の保存管理、および傷病個体の治療施設として機能を継続します。また、これらに関する情報について広く市民に向けて発信していきます。

### 2) 丹頂鶴自然公園（体験型展示施設・研究施設）

野生タンチョウが感染症等により著しく減少した場合に備えて、自然繁殖技術の向上と野生化技術の確立に向けた取り組みを行います（保護研究施設）。

また、嘴や翼が欠損して野生復帰できない個体については、繁殖用に活用し、また人と野生生物との共存について考える生きた教材として活用します。

さらに、四季を通じて自然状態のツルが観察できる環境特性を生かし、普及啓発のため自然体験型展示観察施設としても位置づけます。

この他、たんちょう釧路空港という道東の玄関口に近い交通の利便性を生かし、野生タンチョウの観察マナーや情報集積発信のための野生タンチョウ情報センターの機能を持たせます。

### 3) 阿寒国際ツルセンター（学習施設）

阿寒国際ツルセンターでは、既存の博物展示室やライブラリーコーナーなどの施設を有効活用し、ツル類の学習教育施設として機能をさらに充実させていきます。

また、ツル類保護の先駆的役割を担ってきた釧路のタンチョウ保護活動を国内外に紹介し、またアジアのツル類についての最新情報の集積と発信をするアジアのツル類情報センターとして機能を充実させていきます。

さらに、形態や生態の違いを通じて、タンチョウへの理解を深められるよう、アジアのツル類の生態展示を検討していきます。



学習会（こどもワークショップ）の風景

## 10.6. 各施設における整備計画の方針

### 1) タンチョウ保護増殖センター

#### 野生タンチョウ検死・標本管理

■死体の死因究明、死体標本の保存管理に要する施設の充実を進めます。

#### 傷病個体治療

■動物園内の動物病院や治療施設と連携して、施設や設備の充実を進めます。

### 2) 丹頂鶴自然公園

#### 展示教育と研究との両立

■保護研究と教育普及の両立を図るため、飼育展示場の二極化を行います。

#### 保護研究

■タンチョウの増殖技術向上と野生化技術確立のため、人の影響を極力排した非公開施設を整備します。

#### 自然体験型展示

■本来のタンチョウの生活空間と暮らしを理解できる自然体験型飼育場の整備を目指します。

■整備に当たってはソフト面を先行し、実験的な整備とその結果をフィードバックしながら最終的な計画を策定します。

■自然体験型飼育場について正しく理解されるように、魅力的で適切な解説展示を整備します。

#### 野生タンチョウ情報センター

■来園者が目撃した釧路管内でのタンチョウや他の野生生物情報を掲示できる情報交流空間を設けたり、タンチョウの観察マナー向上の場を提供します。

#### ソフト

■解説者とツルとのコラボレーション（解説者と来園者との対話）を通じてタンチョウの情報を発信する体制を整えます。

■タンチョウの生態、行動、抱えている課題を理解するための解説用教材を年齢、年代別に開発します。



### 3) 阿寒国際ツルセンター

#### ツル類の学習教育施設：

■脚の熱交換システムや飛翔の仕組みなど、生理学的あるいは学問的な興味を満足させる視点の展示物を中心に、見て、聞いて、触って、遊んで学ぶ「参加体験型展示物」へと再整備します。

■子供達が学習できる実験研究体験室を設置し、研究体験を通じて自然環境保全の意識が根付くように整備します。

■タンチョウを始めとするツル類の博物館として、主としてタンチョウに関する博物標本の集積と保管設備を充実します。

■道の駅や農村公園を有効活用して、旅行で休息に訪れた人々に向けた「学びの場」を整備します。

■ビオトープから阿寒川までの空間を自然教育園として、環境整備を進めます

#### アジアのツル類情報センター

■ツル類保護の先駆的役割を担ってきた釧路のタンチョウ保護活動の国内外への紹介と、アジアのツル類についての最新情報の発信について、インターネットを通じた情報配信のほか、旬な情報を提示できるコーナーを整備します。

■形態や生態の違いを通じて、タンチョウへの理解を深められるように、また来館者にアジアのツル類の現状を伝えるために、アジアのツル類の生態展示施設を検討します。

#### ソフト

■夏期、ビオトープの自然教育園として利用できる解説プログラムを開発します。

■年齢、年代別の教育ワークショッププログラムの開発を行います。

## 10.7. 施設の運営戦略

### 1) 施設の名称

釧路市丹頂鶴自然公園と釧路市阿寒国際ツルセンターは、動物園所管施設であるにもかかわらず、市民からは独立した個別の施設として誤認される恐れがあります。また、施設機能の性格が連想できる施設名への改称も検討する必要があります。

改称例：

■釧路市丹頂鶴自然公園は、釧路市動物園 丹頂自然公園とする。

■釧路市阿寒国際ツルセンターは釧路市動物園 阿寒ツルセンターとする。

### 2) 計画的事業展開

効果的な施設運営のためには、施設機能に係るコンセプトに基づいて、それぞれの施設について5年あるいは10年の中長期計画を策定し、施設運営にあたる関係者は意思統一して、実現に向かう必要があります。

■基本計画（コンセプト）に基づいて、戦略的に、5年とか10年計画（目標）を策定します。

■展示施設、解説施設、あるいは見せ方など、5年あるいは10年スパンで計画的に見直し、リニューアルするとともに、市民へ周知を行います。

■観光客も市民のツルへの理解のために、3つの今の施設をうまく活用するソフト面を充実します。

### 3) 市民一体となった活動

ツル関連施設で求められている事業内容は多岐に渡っており、高度な専門知識も必要とされる分野もあります。このため、計画を実現するには指定管理者のほかに、民間団体参加型の運用も視野に入れる必要があります。また、施設をサポートしていただくボランティアの育成も図る必要があります。

■情報集積と発信を得意とする分野の団体、教育分野についてノウハウのある団体、市民活動の支援についてノウハウのある団体、観光者に対するサービスについてノウハウのある団体等が共同で事業を展開できるシステム（ソフト）作りを目指します。

■ボランティア（団体）が課題を見出し、自ら解決するような組織作りを目指します。

■学校における郷土教育として、タンチョウの保護の歴史が取り込まれるよう、調整を図ります。